中国人教師としての考え方と授業実践

張　　榮　湄

私は来日して11年、北陸学院で中国語を教えて７年になる。教養学科、食物栄養科、英語コミュニケーション学科の教養科目としての中国語を担当している。この授業の目標は「中国語の基礎的、実用的な能力を身に付けるのと同時に、中国文化・言語や生活・習慣に対する興味や関心を高め、また中国と比べることによって、日本語や日本文化についての理解を深める」と設定している。この設定された目標を、どのように実現するのか、限られた授業の時間の中でいかに具体化するか？北陸学院の実態を配慮して、これまでの教育経験と1999年度の受講生に実施したアンケート（後掲付録６と付録７）に基づき、中国人教師としての授業実践とその所見を述べてみたい。（1999年度には中国語授業を受けたのは食物栄養科、英語コミュニケーション学科だけである。）

１　前期の授業について

前期の授業では、中国語の正確で自然な発音の習得が主な目標となる。まず中国語の発音を表すピンイン（中国式のローマ字表記）の学習から始め、ついで簡単な日常会話（挨拶、自己紹介）を通じて発音や話の練習をする。また辞書の使い方も前期に取り入れる。

中国語の発音を表すピンイン（ローマ字）の学習は、大体３－４日分の授業が必要で、ピンインの学習で特に注意したのは、日本語にない音、英語から連想される発音と異なる音である。またピンインの学習の段階には、習ったピンインに応じていくつか基本的な単語を学習する。このやり方はピンインを学習する目的が眼に見える形になる。ピンインだけ習うより、学生のピンインを習う意欲が高くなるし、基本的中国語はできるだけ早く授業に取り入れ、リピートする機会が多くなって覚えやすい。

なお、ひととおりピンインについての学習が終了した段階で辞書の使い方を説明する。辞書の利用は自主学習の第一歩として、早ければ早いほどよいと考える。最初調べるのは名前、故郷、住んでいる所など自分のことである。辞書の種類としては、授業での便を考えて、中日と日中が一緒になったものを推奨している。学校や学生の協力で一人一冊を実現して、授業がし易くなった。

ピンインの学習を中心とする段階のまとめとして自己採点の小テストを行う。この小テストは習ったものを整理して系統化する一方で、学習の視野を広げるために中国語検定準４級の問題も少し取り入れた。またいろいろな目的に合わせた辞書の利用も重要な問題である。

次の授業の重点はピンインを見て正しく朗読することである。その時、私はいつも学生に話すことは「ピンインの学習の段階は終わったが、発音練習はまだ終わっておらず、最後の授業まで繰り

返して練習しなければならない。」である。発音や中国語を話すことは大きな声で朗読から始め、一人で朗読の習慣を身に付けることを最初から心がける。クラスの人数が多い場合は、一人一つの文でも朗読すればよい。教科書の文を朗読する他に唐詩や歌も取り入れ、唐詩は中国詩の最高のものとしてリズムがよく、文字の使い方も優れている。できるだけ短く分かりやすいものを選んで、楽しく朗読できるように心がけ、歌の場合は中国の歌の他に「アトム」のような中国語に訳された日本の歌も取り入れ、これらの歌はメロディになじみがあるためが、学生には好評であった。（参照付録１と付録２：アンケートの統計）詩や歌を通しての発音練習は、毎回の授業の始めのわずかな時間を利用し、効果があったようだ。

またこの段階には、習ったものを「とにかく使ってみよう、とにかく話そう」という授業が少しずつできるようになった。最初から始めた中国語による極短い挨拶を少し変化したり、増やしたりした。また中国語で出席を取ることや、教室用語や教師と学生の間の簡単な意見の交換もできる限り中国語を使うようにした。とにかく授業では中国語が必要なものになった。必要のため繰り返し使っていって、分からないうちにこれらの中国語を学生自分のものにすることができる。

前期授業が終わる時、口頭の自己紹介の中間テストがある。これも中国語を習った学生に必要な能力としてマスターしなければならないと考えて、一人で話すチャンスとして設置したものである。自己紹介の内容としては毎年採用した教科書によって同じではないが、時間としては一人およそ３分間である。クラスの人数が多い場合は、二日分の授業時間を使う。やり方としては先ずクラスをいくつかの組に分け、学生はある組の中で習った唐詩を朗読したり、自分で書いた紹介文を暗誦したり、また他の人の發表を聞いたりする。学生の發表する紹介文に基づいて私が中国語で質問する。中国語では平叙文と疑問文の間に構造的相違があまりなく、テキスト等を通じて基本的な平叙文さえマスターできれば、あとは「だれ、なに、どこ、いつ」など、いくつかの疑問詞を使って疑問文を理解し易い。学生を緊張させないために、私から中国語で質問することは事前には伏せていたが、自己紹介文を暗誦できた学生のほとんどは、私からの中国語での質問を理解し答えることができた。このような経験は学生に中国語を話したり聞いたりする上で、かなりの自信を与えたようである。（参照付録１と付録２：アンケートの統計）

２　後期の授業について

後期の授業の主な目標は、中国語の文章を学生自ら翻訳に挑戦することを設定している。周知のように日本人が漢字になじみ、中国語を解読するのに上達が一番速いという点を活用したいと考えているからである。

日本と中国は地理的に近い、しかも同じ漢字文化圏に属し、両国の文化や生活習慣は似ている所が多いと言われるが、よくみると両国の異なる部分も実際には少なくない。両国のこれらの相違を学生自ら翻訳することによって発見してもらいたい。したがって後期の授業は先ず中国語の読解力を向上させるよう心がける。教科書の文を学生が自分で辞書を頼って解読するのは、夏休みの宿題として既に始め、授業の時一気に行う。後期の最初の授業は教科書の文に翻訳を中心として進め、

翻訳をしながら、少しずつ取り入れるのは、誤解しやすい漢字、漢語と翻訳する手順や注意すべき点である。学生がある程度翻訳のができるようになってから、私が用意し中国語の文章を翻訳させる。

翻訳には学生が別々に各自が興味のあるテーマを一つ選ぶことから始め、大体400字程度の文章の翻訳に二日分の授業を必要とする。文章の内容としては中国の生活習慣や文化など日本にあまり見られないものが多い。（参照付録３：翻訳についての例）翻訳は殆ど学生が自ら辞書や文章に付いていた解説を利用して行うが、特に難しい所だけ私が説明する。その時の授業は図書館で行う。自分の辞書の他に多くの辞書を利用できるようにするためである。

翻訳が終わって、学生はこの翻訳から得られた中国に関する知識を日本と比較したり、検討したりして、自分なりの「比較・感想文」に日本語でまとめる。その時、私は学生に自分のテーマに関する日本の事情に関する本を読むことを指導する。自分と異なる世界を知る目的の一つは、自分の文化や生活習慣を深く考えるためである。この「比較・感想文」を書くのは一日分の授業がかかったクラスと二日分の授業がかかったクラスがあるが、どちらか質よく「比較・感想文」が出易いかを見くらべる所である。

最後には發表会がある。学生は自分の翻訳した文の中で最も印象深いものを中国語で発表(朗読)し、自分で書いた「比較・感想文」を日本語で発表する。他の学生は中国に関するいろいろなテーマの発表を聞くことになる。その場では私が学生の發表によって日本語で質問をする。これは發表する学生にとっては、自分のテーマに関する理解度のチェッキでもあり、他の学生にとってはこのテーマについてもっと多くを知るためである。このように学生たちは自分で發表し、他の發表を聞くことによって中国文化や習慣をある程度理解するようになった。（参照付録４と付録５：評価・議論表の例）

このやり方は、学生にはマスターしたばかりの中国語を使う場を提供する一方で、自分の力で日本と異なる世界を見つけ出し、同時に日本文化や習慣も考えさせるようにすることである。また学生がある程度自分が興味のあるものを勉強できるようになった。このようにして設定したこの授業の目標に近づく。学生からも「一年間というとても短い期間でしたが、中国語だけでなく、中国の文化なども学べて、日本とは違ったことも発見できた。」と感想を得られた。ただこのやり方は、学生の中国語のレベルに相応しく、学生にとって興味深い中国語の文を探すのが難しい。

この試みは1998年度から始めた。1999年度はコンピューターを用いて作ったという点で、形としては以前より少し進歩したかもしれない。しかしコンピューターで直接文章を作成したためか、一回の授業で仕上げるという時間の制約があったためか、こちらの指導不十分であったのか、その原因はわからないが、全体的に見て、文章の出来が前年度に及ばないような気がする。でも中国語を一年間しか勉強していない学生から日本以外にどのような異なる世界があるかを多くの人々に伝えることが出来てうれしく思う。またこれらの文はコンピューターを用いて作ったため、これを集めて学生文集を作ることもできるようになった。この**「中国と日本は何処が違うか —— 中国語の授業を一年間受けた学生の目を通して」と名づけた**文集は、学生にとっては自分の成長の記録であり、外国人教師にとっては母語を教える中で異文化交流の架け橋を作ることに自分が微力ながら尽

くした足跡でもある。出来上がった文集は学校の図書館に寄付したり、他の先生や学生に読ませたりした。その中の一文は学校の雑誌「栄光台」に載せることになった。

3　アンケートについて

後期の授業が終わるとアンケートをする。1999年度アンケートしたのは、「学生が中国語を受講する動機」、「授業に対する学生の評価」や「教師、授業に対する希望」などを知り、今後の授業に活かそうと考えたからである。このアンケート、また統計を加え、授業の改善につながる問題に絞ってコメントを述べたい。

このアンケートから学生が中国語を受講する動機の圧倒的多数は中国語に対するに興味であったことが分かった。(アンケートを書いた45人の中で39人このように答えた。参照付録１と付録２：アンケートの統計）これは私に大きな自信をくれた。興味があればこそ中国語に対する意欲的学習が可能である。むしろそれらの興味が表面的で、深くないかもしれないが、それを意欲的学習の芽として大切に育てるのが教師としての責任と感じている。

中国語は発音が難しいとよく言われているが、アンケートでもそのように言う学生が少なくない。学生が最初にぶつかる壁をどのように乗越えさせるのは、重要な問題である。今まで特に注意したことは、最初の発音の授業をゆっくりと細かくやること、また詩や歌で形として固くない発音練習を取り入れたことである。これはいずれも学生から好評をもらってうれしい。

また中国語で教えるか、日本語でお教えるかについて、私は授業では可能な限り中国語を用いている。それは学生にできるだけ多く中国語に触れてほしいと思ったからである。また、たとえ意味は十分に理解できなくても、中国語のリズムやイントネーションを身につけることが重要と考えたからである。これに対する学生の評価は「できるだけ中国語で教える6人」と「できるだけ日本語で教える11人」というように二つに分かれ、またこの項目に無回答の6割以上の学生は現在のままでよいと考えているのかかもしれない。学生が中国語に触れる機会が多ければ、多い程勉強になるであろうから、可能な限り中国語での授業を続けたい。ただ４人の学生が「もっとゆっくりしゃべってほしい。」と回答している点を考えて、今後は中国語で話す速度を遅くするよう心がけたい。

私の日本語について、5人の学生が「先生の日本語は聞き取りにくい、もっとわかり易く日本語をしゃべってほしい」と回答している。これらの回答を考え、授業で使う日本語をもっと改善しなければならないと思っている。

これらのアンケートは実際には教師、学生間のコミュニケーションである。コミュニケーションと言えば、日本人が口でするよりは書く方が得意と感じたので、これを実施することになった。が、今度のアンケートは一年間に一回で、全部の授業を終了した時に行ったもので、前をもって学生に用意する時間を与えてなかったので、それらのコミュニケーションは十分とは言えないだろう。学生からもっと多くの声、もっとよく考えた意見を聞くために、アンケートを実施する時期等について工夫しなければならないと思っている。

付録１　アンケートの統計（食物栄養科・中国語演習）　授業人数：27

1999年度金曜日３・４限　教科書：張乃方ら「白水社中国語読本」（白水社、1998年）アンケートをした人数：25

なぜ中国語を勉強したいのですか	(1) 単位のため	(2) 中国文化が好き	(3) 中国語に興味	(4) 中国へ旅行	(5) その他	
答え人数・回数			19	1	1	
今度の学習で最も向上した能力	(1) 聞く	(2) 読む	(3) 書く	(4) 話す	(5) 翻訳	(6) その他
答え人数・回数	1	13		1	5	
教師や授業に対しての希望：授業	(1) 中国語で教え	(2) 日本語で教え	(3) 話す練習	(4) 書く練習	(5) その他	
答え人数・回数	4	4	6		1	
教師や授業に対しての希望：宿題	(1) 出さない	(2) すこし出し	(3) 多く出し	(4) その他		
答え人数・回数	15	3	1	1		
教師や授業に対しての希望：授業の進度	(1) 速く進め	(2) 適当	(3) ゆっくり進め			
答え人数・回数		12	7			

また自由記述には（二人以上で書いたもの）

好きな所： 中国文化や中国と日本の違いを知る所（10人） 中国語の歌を歌う所（３人） 自己紹介と翻訳（２人）	好きではない所： 発音が難しかった（３人）	他の希望： もっと中国の文化を紹介したい（２人）

付録２　アンケートの統計（英語科・中国語演習）　授業人数：37

1999年度金曜日1･2限　教科書：張乃方ら「白水社中国語読本」（白水社、1998年）アンケートをした人数：25

なぜ中国語を勉強したいのですか	(1) 単位のため	(2) 中国文化が好き	(3) 中国語に興味	(4) 中国へ旅行	(5) その他	
答え人数・回数	2		20	2		
今度の学習で最も向上した能力	(1) 聞く	(2) 読む	(3) 書く	(4) 話す	(5) 翻訳	(6) その他
答え人数・回数	2	18	1	3	4	
教師や授業に対しての希望：授業	(1) 中国語で教え	(2) 日本語で教え	(3) 話す練習	(4) 書く練習	(5) その他	
答え人数・回数	2	7	12	3	2	
教師や授業に対しての希望：宿題	(1) 出さない	(2) すこし出し	(3) 出し	(4) その他		
答え人数・回数	20	4		1		
教師や授業に対しての希望：授業の進度	(1) 速く進め	(2) 適当	(3) ゆっくり進め			
答え人数・回数		6	19			

また自由記述には（二人以上で書いたもの）

好きな所： 中国文化を学んだ所（４人） 中国語の歌を歌う所（12人） 自己紹介等ができるようになった所（６人）	好きではない所： 中国語の発音が難しかった。（３人） いきなり中国語で話しかけてくること。（２人） 先生の日本語は分からないとか、聞き取りにくいとか（3人）	他の希望： ゆっくりと話してほしい。（２人）

張　　榮　湄

付録３　　**翻訳についての例**

１９９９年度中国語　　英語科２年

早晨

中国民间有句谚语，叫做：一年之计在于春，一日之计在于晨。意思是每年从春天开始，每天从早晨开始。

中国人有早起床的好习惯，每天天不亮就起床的人很多。

有的学生爱在校园里晨读，因为早晨人的记忆力最好。

有的人喜欢沿着马路长跑。早晨的马路，汽车很少，红绿灯也不干扰，可以说是长跑爱好者的天堂。

有的人愿意在公园里打太极拳。公园里树很多，空气很新鲜，是太极拳爱好者的理想世界。

在大街上能看见一些老人提着鸟笼子散步，在郊外的小河边能看见歌唱家和京剧演员练嗓子，在早市上能看见热闹的买卖场面。

早晨是一天中最美好的时光，中国人很喜欢早晨。

翻訳文　　「朝」

中国の民間には、「一年の計は春にあり、一日の計は朝にあり」という諺があります。意味は、毎年は春から始まり、毎日は朝から始まるということです。

中国人は、早起きをする良い習慣を持っており、毎日明るくなる前に起きる人が多いです。

朝の人間の記憶力は、最も優れているので、学校で朝の朗読をするのを好む学生もいます。

大通りに沿ってジョギングをするのを好む人もいます。朝の大通りは、自動車がとても少なく、信号も邪魔をしないので、ジョギング愛好者の天国と言えます。

公園で太極拳をするのを好む人もいます。公園の中は樹が多く、空気が新鮮で、太極拳愛好者の理想の世界です。

大通りでは、老人たちが鳥籠を提げて散歩しているのを見かけ、郊外の小川のほとりでは、歌手や京劇俳優が発声練習するのを見かけ、朝市では、にぎやかな売り買いの場面を見かけることができます。

朝は一日の中で最も素晴らしい時間であり、中国人は朝がとても大好きです。

付録４

評価・論議表（1）

クラス英語科氏名

西暦 2000年1月21日

発表者の名前	発表のテーマ	聞く方からの評価・論議（特に特徴的ものもの）
一針さん	朝	中国人は朝早く起きて朗読をするなど、本当に健康的なんだと感じた。
大町さん	名前	名前はその人の家柄や特徴を表わすものなのだなと、改めて感じた。
小林さん	〃	自分の名字をとても大切にしている中国人はすごいと思った。私も、もっと自分の名字を大切にしようと思った。
笹島さん	週末	週休2日の制度は日本と同じところにはおどろいた。
橋さん	家事	中国人は夫婦がちゃんと協力しあって家事をする。もっと日本人はこのような点を見慣うべきだ。
西端さん	散歩	散歩は中国の伝統的な運動なのだなと感じました。
西村さん	散歩	高齢者が食後散歩をするのを好むという点で、日本ではあまり考えられないと思った。
番匠さん	タブー	日本人は中国人より、冠婚葬祭のようなタブーはきびしくないということがわかった。
堀さん	餃子	中国の結婚式の場には餃子を出され、「生」と答えなくてはならないしきたりがあるのにはおどろいた。
桝井さん	団子	団子は一家だんらんを象徴していることがわかった。団子は餃子のように中国の特徴的なものなのだな、とかんじた。
村木さん	種	中国人は種をかじることが好きなんだなと感じました。
山本さん	方言	中国にも方言があるのにはびっくりした。また、日本のように標準語をTVなどでとり入れてる点にもおどろきました。
久米田さん	朝食	お粥にもたくさんの種類がある。抗がん性のあるトウモロコシ粥を食べてみたいと思った。
沖野さん	朝	中国人はお年寄りから子供まで朝を大切にすることがわかった。勉強は夜やるより朝やるように心掛けようと思った。

張　　榮　湄

付録5

評価・論議表（2）

クラス食物栄養　氏名

西暦二〇〇年1月21日

発表者の名前	発表のテーマ	聞く方からの評価・論議（特に特徴的ものもの）
	朝食	中国の朝食におかゆが多くとうもろこしは防がん性がある"人は食事にたよって生きている"
	団子	中国は元旦にぎょうざ15日に元宵を食べる、が日本は最近正月の料理は作らなくなってきている。
	週末	中国の週末は日本のように、子供がいる家庭は子供と出かけたり家で一緒にあそんだり、日本と同じです。
	家事	家事のとりくみ方が日本とちがう。日本は家事をするのは女性と決めつけられている。
	睡眠	睡眠はかぜをひくのを防ぐのであり、睡眠を大切にしている。日本は中国人のように睡眠を多くとらない。
	自転車	中国の自転車は電気がなくベルが必要、中国で一番多いのは自転車である。運動不足解消にもなります。
	色々な種	中国の人はひまわり、すいかの種を食べる。そして体にもよい。種は栄養があるので、すてるのはもったいない。
	結婚	日本と中国の結婚式は西洋化が多い。ふとんの中にらっかせいなどが入っているのはえんぎ物である。
	呼び方	中国は格の高い人につける言葉があり、知らない人には"同志"をつける、友人達には日本のように"さん"などをつける
	中国人の禁忌	中国の女性は足を見せてはいけない。他は送りものをするのにとけいはそうしきを連そうするので送ってはいけない

付録６

アンケート

西暦2000年 1 月 21 日
クラス 食物営養

１　なぜ中国語を勉強したいのですか.

ａ　単位のため　　ｂ　中国文化が好き　　ｃ興味　ｄ　旅行　　ｅその他
クラス

２この学年は君の中国語の能力ので最も上がった能力は何ですか.

ａ聞く　ｂ読む　ｃ書く　ｄ話す　ｅ翻訳　ｄその他（できるだけ具体的に）

３このの学年の中国語の授業についての感想・意見を自由に自由に書きなさい。

1年間というとても短い期間でしたが、中国語をほんの少しだけですが学べたことを良かったと思います。中国語だけでなく、中国の文化なども学べて、日本とは違ったことも発見できた。

例えば:ａ好きな所

ｂ好きではない所

ｃその他（例えば改善すべき所）

４　教師に対して，授業に対しての希望やアドバイス。

中国語は発音が難しかったのでもう少し発音が学べたらよかった。

例えばａ　授業の時に　１　先生ができるだけ中国語で教える
２　先生ができるだけ日本語で教える
３　生徒にできるだけ話す練習をさせる
４　生徒にできるだけ書く練習をさせる
５　その他

ｂ　宿題について　１　いらない　２　すこしほしい　３　いる　４　その他

ｃ　授業の進め　１　速く　２　普通　３　ゆっくり進め

ｄその他の希望（できるだけ具体的に）

張　　榮　湄

付録7

アンケート

西暦2000年 1月21日
クラス 英語科

1　なぜ中国語を勉強したいのですか.

a　単位のため　　b　中国文化が好き　　c興味　d　旅行　　eその他
クラス

2この学年は君の中国語の能力ので最も上がった能力は何ですか.

a聞く　b読む　c書く　d話す　e翻訳　dその他（できるだけ具体的に）

3このの学年の中国語の授業についての感想・意見を自由に自由に書きなさい。

初めての中国語だったのでもっと難しいかと思ったけど意外と慣れることができるようになった。

例えば:a好きな所　アトムの歌などがおもしろかった。

b好きではない所　早くてわからなくても次々進む所

cその他（例えば改善すべき所）

4　教師に対して，授業に対しての希望やアドバイス。

例えばa　授業の時に　1　先生ができるだけ中国語で教える
2　先生ができるだけ日本語で教える
3　生徒にできるだけ話す練習をさせる
4　生徒にできるだけ書く練習をさせる
5　その他

b　宿題について　1　いらない　2　すこしほしい　3　いる　4　その他

c　授業の進め　1　速く　2　普通　3　ゆっくり進め

dその他の希望（できるだけ具体的に）